



渡嘉敷島の美しい海に親しむ
 前日に開講式を終え、本格的に始動したツアー二日目（七月三十日）は、渡嘉敷島「国立沖縄青年の家」海洋研修場で、沖縄の自然を体験し交流を深める自然学習を行いました。
 渡嘉敷島のある慶良間諸島海域は、約二百五十種類の珊瑚が分布し、世界有数の透明度を誇る美しさ。
 参加者は、シュノーケリングや大型カヌー、オープンカヤックなどの体験を通して、渡嘉敷島の美しい海に親しみ、自然のすばらしさと大切さを学びました。
 また、地元、渡嘉敷中学校の生徒とビーチサッカーを楽しむなど交流を深めました。

ツアー三日目（七月三十一日）は、読谷村の「むら咲むら」で、沖縄の伝統芸能などに親しむ文化学習を行いました。
 沖縄の文化に初めて触れる参加者も多く、真剣な表情で琉球舞踊や三線、空手などに取り組んでいました。
 紅型の衣装を着て「かぎやで風」などを踊ったり、額に汗をかきながら空手の型を教わったり、「安里屋ユンタ」などを三線で弾いたりしました。
 伝統文化を体験した後は、沖縄のおやつ「サーターアンダギー」をみんなで作作り、おいしくいただきました。



沖縄の伝統芸能を体験

第四回 世界のウチナーンチュ大会プレイベント ジュニアスタディーツアー開催!

10月に開かれる第4回世界のウチナーンチュ大会のプレイベントとして「ジュニアスタディーツアー」（同大会実行委員会主催）が7月29日から8月8日までの11日間の日程で行われました。



真剣な表情で取り組んだ琉球舞踊



沖縄の魚のカラフルさにビックリ



エイサー演舞を終えてハイチーズ



「平和の火」を前に戦争と平和について学ぶ

ふるさとで平和の祈り
 ツアー七日目（八月四日）は、南部戦跡や糸満市摩文仁の平和祈念資料館、平和の礎などを巡り、平和について考えました。
 参加者たちは、沖縄戦の体験者である長田勝男さん（沖縄県観光ボランティアガイド友の会）の話に耳を傾け、戦争の悲惨な状況について、熱心にメモを取っていました。
 また、長田さんの説明を受けながら見学した平和の礎では、沖縄戦で亡くなった親戚の名前を探し出し、鉛筆で丁寧に写し取ったりする姿や、石碑の前で祈りを捧げたりする姿も見られ、あらためて平和の尊さを感じたようでした。



稲嶺知事を囲んで記念撮影（県庁）

ジュニアスタディーツアーとは

世界各地には、三十五万人を超えるウチナーンチュが住んでいます。
 その世界のウチナーンチュが沖縄に集う「第四回世界のウチナーンチュ大会」が、今年十月に開かれます。
 そして、この大会のプレイベントとして、七月二十九日から八月八日までの十一日間、ジュニアスタディーツアーを行いました。
 海外に住むウチナーンチュと沖縄との絆を深め、世界に広がるウチナーネットワークの未来を担う次世代の人材を育成することがねらいです。
 ツアーには、アメリカ、ブラジル、ボリビアなど世界十一カ国からウチナーンチュのジュニア三十四名を招待。地元沖縄の児童、生徒らとともに、沖縄の自然や文化、歴史、平和などを体験することで沖縄への理解を深めてもらいました。
 ツアーでは、期間中ほぼ毎日、みんながエイサーの練習に取り組み、那覇市のテンプス館前で演舞をしたり、民家にホームステイし沖縄のお盆、ウンケーやウーケイを体験したりと、ユニークなカリキュラムもありました。
 参加者からは「沖縄で自然や文化、歴史などを学び、多くの人と出会えたことでウチナーンチュとしてのアイデンティティが確認できた」といった感想がありました。

沖縄の移民について学ぶ



未来のウチナーネットワークについて発表

ツアー八日目（八月五日）は、浦添市の沖縄国際センターで、沖縄の移民について学びました。
 まず、前原信一さん（沖縄テレビ放送（株）取締役）が「世界中に広がるウチナーンチュの心」と題した講話を行いました。
 この中で、前原さんは「移民一世が持ち込んだ沖縄の伝統文化や習慣を大切にすることは、子孫だから自然に継承されるものではなく、沖縄の文化や伝統芸能への関心を高めることが大切だ」と話しました。
 講話の後、参加者たちは「世界に広がるウチナーネットワークを利用し、どんな未来が創れるのか」について意見交換をしました。

お問い合わせ 実行委員会事務局 TEL:098-866-2200 FAX:098-869-2186